

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
49	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Effect of alcohol consumption, cigarette smoking and flushing response on esophageal cancer risk: a population-based cohort study (JPHC study).</p> <p>飲酒、喫煙と飲酒による顔面紅潮と咽頭癌：一般集団におけるコホート調査(JPHC study).</p>	
執筆者	
Ishiguro S, Sasazuki S, Inoue M, Kurahashi N, Iwasaki M, Tsugane S; JPHC Study Group.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Lett. 2009 Mar 18;275(2):240-6. Epub 2008 Nov 25.	
キーワード	
咽頭癌、顔面紅潮、飲酒者、喫煙者	
要旨	
<p><b>目的：</b> 咽頭癌はアジアでは扁平上皮癌が欧米では腺癌が多くみられる。咽頭部の扁平上皮癌 (ESCC) は喫煙、飲酒などに関連があることがすでに報告されている。また ALDH2 の欠損者では ESCC のリスクが上昇することもすでに知られている。本研究では飲酒、喫煙、ALDH2 欠損の一つのマーカーである飲酒による顔面紅潮(フラッシング)と、ESCC の関係を大規模のコホート調査で検討した。</p> <p><b>方法：</b> 44970 名の中高齢日本人男性を対象に追跡調査を行った。</p> <p><b>結果：</b> 215 名の新規発症を得た。飲酒、喫煙は ESCC と強い関連を認めた。多量飲酒者は ESCC のリスクが特にフラッシングのある喫煙者で上昇を認めた(HR=3.41、95%CI 2.10-5.51)。ヘビースモーカーで強い結果の修飾を認めた。</p> <p><b>結論：</b> この結果からは多量飲酒者でヘビースモーカーでは ESCC の危険性が特にフラッシングがあるもので特に上昇することを示唆している。</p>	